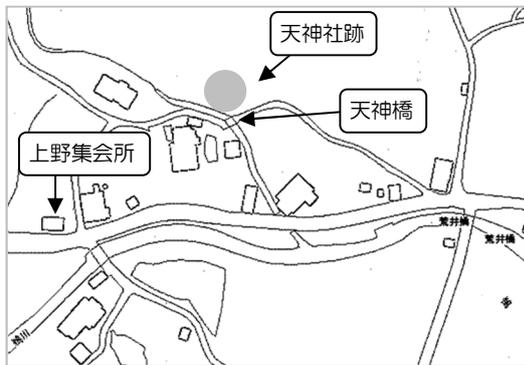


## 「柏崎の橋」 57 天神橋 (女谷)

天神橋は、鶺川地区女谷<sup>かみの</sup>上野を流れる与一沢川（鶺川支流のひとつ）に架かる長さ4.3m、幅2.9m、鉄筋コンクリート製の小さな橋である。

橋の付近は小字を「天神」「天神前」といい、「天神」という屋号もある。それらの名はすべて、以前この地に建立されていた天神社に由来すると考えられる。



天神橋地図(柏崎市GISベースマップより)

天神社は「天神様」として親しまれてきた菅原道真を祀る神社で、江戸時代には学問の神として広く信仰された。

柏崎では昔から正月に天神様を祀る習慣があり、1月25日には子どもたちが集まってお祝いをする「天神講」が行われた。鶺川では、決められた宿に子どもが米一、二合を持って集まり、床の間に飾った天神様に「ショッパイマンマ」といって醤油ご飯や五目飯などを供えて食べ、一晩中遊んで楽しんだという。鶺川地区の中でも女谷が一番盛んだったそうである。

天神社は上野の産土神だったが、明治39年に国から「社寺合併並合併跡地譲与二関スル件」という勅令が出され、全国の神社の合併・整理が行われたことにより、明治42年に黒姫社（綾子舞奉納で知られる黒姫神社）に合併された。

現在、社<sup>やしろ</sup>はなくなり、天神講をする子どももいなくなった。苔むした橋を渡る人も少なくなったが、柏崎の「天神様」を語るときには、忘れてはいけな橋であろう。



昭和61年の天神橋(維持管理課資料写真)



現在の天神橋。白枠部分に社の石段の跡が今も残る。

- 参考にした本  
『柏崎市史資料集 民俗編』(224 Kシハ) 柏崎市史編さん委員会編  
『柏崎市史 中巻』(224 Kシハ) 柏崎市史編さん委員会編  
『写真に見る鶺川の郷土史 上野・下野』(224 フセ) 布施一著